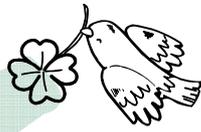


むさしのヒューマン・
ネットワークセンターだより



SOYOKAZE

Vol.44

2013年3月25日

そよ風

Contents

トピックス【夫は外で働き、妻は家庭を守る？】	①
きりり！このひと	②
講座開催報告(10月～2月)	②③④
News	⑤
運営協議会活動報告	⑥⑦
新着図書紹介・各種利用案内	⑧



トピックス

夫は外で働き、妻は家庭を守る？

「男は仕事／女は家庭」のように、二つの性別で役割を分けることを「性別役割分業」といい、お金が支払われる公的な労働を男性が担い、支払われない私的な労働（家事・育児・介護等）を女性が担うことを意味しています。

性別役割分業の固定化は女性の生き方を制約するだけでなく、男性が家族を扶養することを前提としているため、母子家庭や女性単身高齢者の貧困につながることもあり、男女間の経済的不均衡は女性に対する暴力の一要因ともなっています。

2012年(平成24年)10月の内閣府による調査では、「夫は仕事、妻は家庭」という考え方について、51.6%が「賛成」「どちらかといえば賛成」と答え、「反対」「どちらかといえば反対」が45.1%となっています。前回の調査結果(2009年)と比較すると、「賛成」が増え、

「反対」が減少し、なかでも20代男女の賛成派の伸び率が大きくなったとのことです。

また、武蔵野市男女共同参画に関する意識調査(2012年11月実施)では、理想とする役割分担は「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も平等に分担する」が最も多く、女性(70.7%)、男性(52.7%)となりました。しかし、実際には女性は「分担するような相手はいない」(31.0%)、男性は「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を担っている」(26.9%)と答えています。

今後の日本の経済成長のためには、女性の就労増加が期待されていますが、そのためには男性の家事・育児・介護への参加や、育児休業の取得の促進など、男女共にこれまでの働き方、暮らし方を見直す必要があります。

まわり!このひと

抱えている問題を客観視 一学ぶことの重要性を実感

〈寄稿〉本木 綾子さん

出産をきっかけに専業主婦になって3年半。育児や家事などに追われ、その暮らしは決して充実してはいなくてもいいけれど、時に自分の体半分をどこかに置き忘れて生きているような無力感に苛まれてもいました。

社会で必要とされ、自分で自分の生活を賄い、自分の足で立つて暮らす、そのことで得られる自己肯定感を失った私は、いつの間にか自分に自信が持てなくなっていたのです。

そしてこのように感じてしまうのを、自我が強すぎるせいだとか、母親として子どもに尽くすことだけに満足感を得られないなんて「母親失格」かと悩み続けてもきました。

そんなとき、2012年10月の「子どもからの自立—わたしも輝くために」そして11月の「女性のための再就職応援講座」と続いてセンターの講座に参加しました。図書館で見かけたチラシがきっかけです。講座の内容にひかれ、さらに託児もあると知り、思い切って参加することにしました。

講座に参加し、学んでいくうちに、ずっと抱えていたモヤが晴れていくのを感じました。講師の方々からのお話は、知識やデータ、文献によって現代女性が抱えている問題をあぶり出すもので、私が日頃漠然と考えていたことが整理され、さらに客観視できる

ようになり、とても気持ちが軽くなりました。

また、さまざまなワークショップを通して、講座に参加した他の方々のお話をうかがえたことも非常に貴重でした。

「〇〇さんのおくさん」「〇〇ちゃんのママ」などと、気を遣って発言するのではなく、一人の自立した人間として、自分の名前と自己責任のもとで発言する爽やかさを実感しました。

そして「再就職応援講座」では、10年前の就職活動時と比較しても社会状況の変化が多いことを知り、「昔の常識」は必ずしも今は通用しないということも再認識しました。改めて学ぶことの重要性を感じました。

子どもを一生懸命育てること、家族を支えること、それと同時に自分の生き方を模索することは相反するものではないし、家族はそれぞれ自立した人間の集合体である、そう考えられるようになって体がとても軽くなりました。

そして課題は多くありますが、それを理由に諦めるのではなく、今ここからできることを前向きにやっけていこうと強く思いました。この春、子どもの就園とともに私も新しい生活を始めることにしました。



熱心に学びあいました、

講座

子どもからの自立 —わたしも輝くために

日程：平成24年10月2日～30日（火）
午前10時～12時
場所：武蔵野市民会館

- 《第1回》心と考えるこれからの私 —子どもが小さい時こそ考えよう
講師：下村美恵子（むさしのヒューマン・ネットワークセンター長）
- 《第2回》父親と母親の育児への関わり —むかしといまとこれから
講師：伊集院葉子さん（川村学園女子大学講師）
- 《第3回》私は悪いママ？ —ときどき育児がイヤになる
講師：菅原ますみさん（お茶の水女子大学大学院教授）
- 《第4回》ワールド・カフェ —子どもからの自立ってナニ？
講師：下村美恵子（むさしのヒューマン・ネットワークセンター長）



この講座では、子どもが小さいうちから、自分も成長し、今後の人生を考えよう、そしてその準備をしようということをテーマに開催したものです。母と子は常に一体のものと思われ、育児の責任は母親にあると自分も思い込み、いつしかあれがしたい、これがしたいという自分の欲求にフタをし、社会との接点も限られがちになります。

社会全体の育児中の母親の現状を、豊富なデータと研究をもとに話していただき（菅原ますみさん）、母親の就労は、子どもへは何ら影響はないと知りました。また古代・中近世には、父親が子育てに関与していたという歴史的経緯も学びました（伊集院葉子さん）。さらには参加者同士の自由な話し合いもしました。



一人の大人の女性として、自分を活かす道を求め、「わたしが輝くきっかけ」を得たいとの思いがあふれた、参加者の笑顔や真剣な表情が印象に残りました。

おひとりさまの暮らし方 …心配のタネはナニ？

日程：平成25年1月25日（金） 午後1時30分～4時
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：松原惇子さん（ノンフィクション作家）



[終始ユーモアたっぷり]

人生100年時代と言われるなか、一人暮らし世帯は、3世帯に1世帯の割合と増えてきました（22年国勢調査）。「おひとりさま」には死別や離婚・非婚などいろいろな状況があります。「おひとりさま」は何が問題なのでしょう。イキイキと暮らすためのあれこれを、率直で歯切れよく、親しみをこめてお話していただきました。

今からあまりいろいろ心配しすぎないこと、時には人の助けを求めること、それも大事なことですと強調されていました。参加者は数人のグループでのディスカッションを楽しみながら、松原さんからさらにコメントをいただくなど、終始笑いの絶えない和やかな時間を過ごしました。

お互いの心配事や前向きな意見など語り合う時間も持ち、抱いていた不安も少しやわらいで、今後を考える機会となりました。

参加者の感想から

我が意を得たりのご意見、お考えに接して嬉しかったです。ありがとうございました。

今日の話聞いて「目からうろこ」です。老後のことをあまり心配しないで、ケセラセラで楽しくいこうと思います。

発想を変える。足るを知る。情報収集する。友だちを作る。参考になりました。

考えあいました



伊集院葉子さん

江戸時代の弘化二年（一八四五）、三重県の桑名藩から、新潟県柏崎に赴任した渡辺勝之助の日記、いわゆる『柏崎日記』には、こう書いてあります。
「三月一日、天気は風もよう。勝之助は屋頂仕事が終わった。妻のお菊は結婚式に呼ばれ、その後、若原家の法事にも呼ばれていて、泊まりの明け番から帰るとすぐ出かけた。真吾とお六、二人の子どもにご飯を食べさせた。目がウトウトしてきたので膝に乗せ、ふところに手を入れて、首を胸につけるとすぐに寝た。炬燵に抱いて入り、下に置いて寝かせた。二人とも寝たのを、心配したお菊が見に来たが、子どもたちが寝ているのを見て安心してまた出かけた」
「お客が来たとき、まだ四歳ながら嬉しくて給仕の手伝いをしたがるけれど、これは有難迷惑だ」など、微笑ましいことをたくさん、克明に日記に書いています。
時代も教育観も父親の関わりも、今とはもちろん大きく異なりますが、当時の父親が育児に関与していた様子の断片を知ることが出来ます。



菅原ますみさん

生まれてすぐの赤ちゃんは、百パーセント他者に依存しています。依存された養育者は生命維持装置です。しかし任せられた方は生身の人間ですから、二十四時間の中で、休息もし、睡眠をとり、ご飯を食べ、自分の活動もしないと、メンタルヘルスを維持できません。一番苦戦するのは、ママ一人とか、パパ一人のシングル家庭です。また都会の核家族は「隣は何をする人ぞ」のようなマンション住まいだったりして、頼りにできるのは互いの夫か妻…。その頼りの夫も職場に多くの時間をとられ、長距離通勤だったりして、専業の母親は片親に近い状況に置かれがちです。
そこで悩みを聞いてくれたり、その人に代わってみてくれる人というのが必要になります。母親一人で、全部、赤ちゃんがして欲しいことを満たせるのかというところが問題です。
虐待されている子どもたちは、だんだん表情がなくなってきました。とりあえず状況を見ようということになり、そこで起きることを学んでいってしまいます。子どもからすると、普通の喜怒哀楽のある、人間的な、健康的な所に置いてほしいということになります。

DVとの決別—自分らしく生きるために

【武蔵野市/むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会共催】

「結婚したことのある女性3人に1人が、身体的・精神的・性的暴力のいずれかのDV被害を体験している」「23人に1人が殺されるかもしれない危険な体験をしている」(内閣府調査)、「3日に1人ずつ妻が夫の手にかかって殺されている」(警察庁報告)などなど、このような被害実態に私たちは驚いているだけではすまされません。

国も市町村も、この深刻なDV被害に対して、「だれにでも、いつでも起き得ること」という認識と理解のもと、課題解決に向けて動き始めていますが、いっこうに減る気配がありません。阪神淡路大震災・東日本大震災の被災地でも深刻な被害が出たとの報告もあり、許し難いことです。

今回は約30年前、札幌でDV被害者支援に立ち上がり、多くの被害女性たちに寄り添い、問題提起し続けてきた近藤恵子さんをお迎えし、さまざまな被害ケースをお聞きました。事の重大性を改めて突き付けられました。近藤さんは、「現在の公的機関では被害者への自立支援は担いきれていない」とご指摘、私たち一人ひとりができることから、みんなの力でDVを根絶していかなければならないと、訴えていました。

日程：平成24年12月3日(月) 午後1時30分～3時30分
場所：武蔵野プレイス4階フォーラム

講師：近藤恵子さん

(NPO法人全国女性シェルターネット共同代表)

参加者の感想から

DVを許さない社会を早くつくってほしいと願う。

加害者処罰・再教育のシステムが必要だと思う。

統計に表われている以上に、DVが日常に潜んでいることに驚いた。

DVは特別の人の特別の問題ではないという意識を持ちたい。

講師の「社会が暴力化している」という言葉が響いてきた。

被害者には必ずDV被害から回復できることを信じてほしい。

講演会とあわせてDV防止パネル展も実施しました。

日程：平成24年11月29日(木)～12月3日(月)
場所：武蔵野プレイス1階ギャラリー



講座

別れを選ぶまでの… —離婚の基礎知識

平成25年2月15日・22日(金)【全2回】
むさしのヒューマン・ネットワークセンター大会議室
講師 杉井静子さん(弁護士)

幸せを思い描いていた結婚生活に悩んだり、ときには別れを意識したりというとき、早まらず、正しい知識を得てから、思いを整理していく道を探りたい…。そんな方のための離婚の基礎知識を学ぶ講座を開きました。

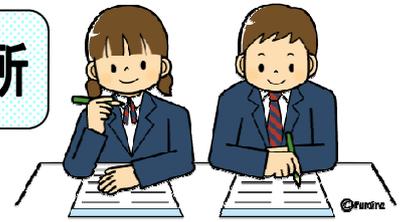
女性の権利問題に造詣が深い、ベテラン弁護士、杉井静子さんは、今回でセンターには二度目のお越しで、普段、あまり身近に接する機会のない弁護士さんからの話は、リアルに響いてきました。
定員を超えての参加者一同、丁寧な説明に深くうなづく場面が数多くありました。



【親権は親の権利でなく義務のこと…】

武蔵野市立第一中学校生徒さん、11人が来所

働くお母さんについて知りたい！



平成24年12月5日(水)午後2～3時、総合学習の一環として、11人の生徒さんが当センターを訪問されました。約1時間、センター長がお話し、質問にもお答えしました。お母さんが働いているという生徒さんもいて、「とても大変そうだけれど、どんな苦労があるのか」「働くお母さんが増えてきているようだが、援助の制度はあるのか」「自分たちでできることは何かあるか」など、事前に頂いていた質問は多岐にわたっていました。

「大勢で働いて、大勢で税を納め、大勢で社会を支えていく」のが社会の基本であり、皆さんはそこを期待されていると伝えました。それには「男は仕事・女は家庭」「男はこう、女はこう」という決めつけをしないこと、さ

らには男も積極的に家事をする、女は仕事を続ける、そうした目標や努力が必要だと話しました。

子どもの預け先は？市の支援や制度にはどんなことがあるのか、センターはどんな取組みをしているのかとの質問

もあり、「男性が子育てに参加しないため、女性の労働が大変」と、しっかりと現実を見ている目もありました。

一つでもセンターに来て収穫はありましたか？とオソルオソル聞くと、一様に「良かったで～す」「話をジカに聞くのはすごくイデ～す」と元気な返事が…。こんなに若いゲストの訪問はいつでも大歓迎で、こちらもとても楽しかったです。



【説明を聞き終わったあと、記念にパチリ】

市の男女共同参画推進委員の視察がありました

2月2日(土)武蔵野市男女共同参画推進委員会委員の8人の方々が、センターを視察訪問されました。

委員会は第三次男女共同参画計画改定にむけて、審議していただくために、昨年10月に発足しています。センター長から現状の報告や課題などについて説明を受け、今後に向けて参考にしていきたいとのご感想をいただきました。

学習記録誌が完成しました

センターで貸し出しもしています。
(P2に関連記事を紹介しています)



図書の特別整理を実施



【定例選書会議は市民も参加】

今年も年度末の「特別整理」を行いました。絵本や行政資料、DVD、雑誌などもふくめ、破損、紛失、汚れや書き込みのチェック、一冊ごとの点検と清拭、書架への配列変更など、数日かかりで作業しました。

『武蔵野女性史』刊行(平成16年刊)に携われた女性史研究家 奥田暁子さんが平成24年12月ご逝去されました。生前のご厚情に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

東海大学からの研修視察がありました

平成25年2月21日(木)午前10時30分～12時、男子学生5名、女子学生5名(2～4年生)とお二人の先生計12名が、当センターを訪問されました。施設の設置目的、職員の仕事、講座の企画・運営に関することなどに関心を持たれての来訪でした。

男女共同参画推進施設については、授業では聞いていても、実際に現場でどのように仕事が進められているかを知らなかったため、その内容がわかり、肌で感じる事ができて良かったとのことでした。

学生の方々の専攻は「生涯学習・スポーツ」「政治経済学」「日本文学」「日本史」「考古学」など多彩で、いづれも社会教育主事の資格取得を目指していました。

これから社会のあらゆる領域で活躍が期待されている学生に、ぜひ男女共同参画の視点を持って貰いたいとの、引率の辻智子講師(教育学)の希望で実現した研修会でした。



【社会教育に強い関心を抱いているのが伝わってきました】

女性のための再就職応援講座

日時：平成24年11月9日～12月7日(金)

午前10時～12時

場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室

【第1回】 11/9 高山直子さん（心理カウンセラー）

グループワークを通して、自分の長所や理想を探り、自信を取り戻す。

参加者の感想 自分自身のことがよくつかめていなかったなので、考える機会となり、すごく勉強になりました。

【第3回】 11/30 上田晶美さん（キャリアカウンセラー）

求人票の見方 履歴書、職務経歴書・添え状の書き方について、今はどうなっているかを知る。

参加者の感想 履歴書の書き方が変わっていると驚いた。キャリアブレイクを生かすことが大切と知りました。

【第2回】 11/16 上田晶美さん（キャリアカウンセラー）

女性を取り巻く労働事情について 短期・中期・長期的なキャリアプランニングの必要性、自分の強みを見つける、つくる。

参加者の感想 講師の話が前向きで、すごく励まされました。「人生は山あり谷あり」、過去をマイナスにとらえず、これからを考えていきたいです。

【第4回】 12/7 下村美恵子

（むさしのヒューマン・ネットワークセンター長）

女性労働に期待が高まってきているが、再就職したいと思うならどう働くかをよく考えよう。

参加者の感想 普段考えなかった経済、社会、政治的側面から、女性や自分の置かれている状況を見ることができました。

初の試み 盛況だった出前講座

好きだけど…NOといえる私に！ -「当たり前」を問い直そう

日時：平成24年12月13日(木)午後5時30分～7時30分

場所：亜細亜大学2号館4階244教室

講師：伊田広行さん（立命館大学他講師）

亜細亜大学、武蔵野市、むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会の共催で亜細亜大学を会場とした、初の出前講座を行いました。

大学生に「デートDV」や「ジェンダー」について理解を深めてもらいたいと、事前協議を重ね、伊田広行さんに講師をお願いして実現したものです。『デートDVと恋愛』（2010大月書店）、『ストップ！デートDV』（2011解放出版社）の著書もある伊田講師は、現在、立命館大学や神戸大学の非常勤講師を務めるかわら、女性センターで「男性向け相談」も担当しています。大阪から日帰りでかけつけてくださいました。授業終了後の午後5時30分に開始、大学側の計らいで、学生さんが続々集まってくれました。学生・大学関係者、そして一般参加者も含む約70名が熱心に耳を傾けました。

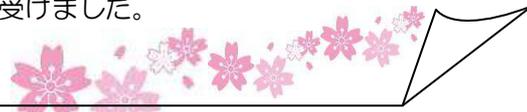


【やわらかい関西弁で聞き手を引き込んでいました】

参加者の感想からは、初めてデートDVの内実を知ったという学生が多く、この問題を若い人にこそメッセージしたいと熱望していた主催者側としては、嬉しい反応で、とくに男子学生の参加が多かったのが印象的でした。

亜細亜大学では、12月10日発行の学内報「アジア」の一面左トップに「恋愛を考える講演会」としてお知らせ記事を掲載し、広報していただきました。協力を惜しまず、快く教室を提供し、受け容れてくださった大学関係者には、感謝の気持ちでいっぱいです。

講師からは「恋愛免許証」というリーフレットを紹介していただき、好きな相手であればこそ尊重し合い、イヤなことはイヤと言える間柄になると貴重なレクチャーを受けました。



男女共同参画推進のための基礎学習講座 I

性に対して公平な社会にしていくには



日程：平成24年12月22日(土) 午後1時～3時
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：内藤和美さん（お茶の水女子大学講師）

日本の男女平等度は世界135カ国中101位と報告されたばかりです。あらゆる分野に女性が活躍できる場と機会を広げていくのは喫緊の課題であり、とくに問題なのが経済・政治分野での役職や管理的立場にある女性の人材配置が極端に少ないことです。

では、私たち市民には何が求められるのでしょうか。分かっているようで分からない「男女共同参画」について、そして「性に対して公平な社会にしていく」にはどうしたらいいのかについて、改めて基礎から、真正面から学ぶこととしたのが、この講座開催の理由です。

講師の内藤さんからは「性について公正な社会形成のために、地方公共団体自らが用いる3つの手段＜条例・行動計画・拠点施設＞の持ち味を活かしつつ、密に相乗的に関連させて実効をあげる」「女性差別撤廃条約の中の条文にある、性に基づく区別、排除又は制限…の＜区別＞は差別の始まりだという解釈の根拠」「間接差別や性別分業が男女共同参画を阻んでいる大きな要因」など、具体的事例をあげながらお話しいただきました。男女共同参画推進の重要性を学ぶ機会となりました。

「母-娘」関係はしんどい？ それぞれの自立を考える

日程：平成25年1月19日・26日(土)
午後1時30分～3時30分
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室
講師：松本侑王子さん（映画評論家）



最近、母と娘との関係について多くの著書が出版され、またメディアでも取り上げられたりしています。遠慮のない関係、そして同性だからこそ分かり合えるはずと、ぶつかってしまったり、傷ついたり、さらには罪の意識を持つこともあります。講師の松本 侑王子（まつもと ゆみこ）さんからは映画評論家という立場から、映画を通してさまざまな母と娘のケースが紹介され、母娘関係の変化を見つめ直し、意識を変え、軌道修正していく必要を伝えていただきました。

武蔵野市男女共同参画推進団体懇談会



日程：平成25年2月7日(木) 午前10～12時
場所：むさしのヒューマン・ネットワークセンター会議室

市には現在、29の男女共同参画推進団体が登録されていて、それぞれが自主的に活発に活動を進めています。

昨年に引き続き、今年も2月7日に登録団体の方々と、運営協議会および市とで、懇親会を開き、現在の活動状況の報告や今後の取り組みなどについて、話し合い、貴重な意見交換をすることができました。

このほど、むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会と武蔵野市、そしてセンターの三者が連携を深め、6月の男女共同参画推進週間に向けて、実行委員会を作り、記念講演会やその他の催しを開催しようということになりました。



[いろいろな意見が出た懇親会]

新着図書紹介

むさしのヒューマン・ネットワークセンター所蔵図書の蔵書一覧が、ホームページ上でいつでも閲覧できます。お探しの本、以前から読みたかった本・・・見つかるかもしれません。どうぞ、ご利用ください。

書名	著者・編者	出版社	発行年
さよなら、お母さん 墓守娘が決断するとき	信田 さよ子	春秋社	2011
揺らぐ男性のジェンダー意識 仕事・家族・介護	目黒 依子	新曜社	2012
文学力の挑戦 ファミリー・欲望・テロリズム	竹村 和子	研究社	2012
性別役割分業は暴力である	福岡女性学研究会	現代書館	2011
女って大変。働くことと生きることのワークライフバランス考	澁谷 智子	医学書院	2011
変わりゆく日本の家族 <ザ・プロフェッショナル・ハウスワイフ>から見た五〇年	スーザン・ヴォーゲル	ミネルヴァ書房	2012
主婦と労働のもつれ その争点と運動	村上 潔	洛北出版	2012
女性・ネイティブ・他者 ポストコロニアリズムとフェミニズム	トリン・T・ミンハ	岩波書店	2011
妻が再就職するとき セカンドチャンス社会へ	大沢 真知子	NTT出版	2012
不惑のフェミニズム	上野 千鶴子	岩波書店	2011
労働再審③ 女性と労働	藤原 千沙	大月書店	2011
ヴァージニア・ウルフ再読 芸術・文化・社会からのアプローチ	奥山 礼子	彩流社	2011
フェミニズムの政治学 ケアの論理をグローバル社会へ	岡野 八代	みすず書房	2012
フランス女性はなぜ結婚しないで子どもを産むのか	井上 たか子	勁草書房	2012
男性不況 「男の職場」崩壊が日本を変える	永濱 利廣	東洋経済新報社	2012
母という病	岡田 尊司	ポプラ社	2012
女性白書2012 私たちの求める「社会保障と税」—ジェンダーの視点から	日本婦人団体連合会	ほるぷ出版	2012
現代思想 2012年11月号 特集 女性と貧困	栗原 一樹	青土社	2012



・図書貸出 3点まで、14日以内 ・ビデオ貸出 2点まで、7日以内
 ・DVD センター内設置のプレイヤーまたは専用PCで再生、視聴できます。貸し出しはしません。

女性の悩みごと相談・・・ひとりで悩まずに、まずは相談を。

■女性総合相談…50分まで面談・予約制

第2木曜日(10:00～、11:00～)

第4火曜日(13:30～、14:30～)

■母子(ひとり親)・女性相談

月～金曜日

(9:00～17:00 祝日・年末年始を除く)

電話相談も行っています。*1回50分・予約制

第2木曜日(10:00～11:50)

第4火曜日(13:30～15:20)

★場所・問い合わせ

子ども家庭支援センター

☎60-1850

★場所・問い合わせ

市民活動推進課市民相談係(市役所西棟7階)

☎60-1829

☎60-1921(予約専用)

いずれも無料、
秘密は厳守されます。



(イラスト) きたもりちか

● センター利用案内 ●

開館時間：月・火・木・土曜日 9:30～17:00
 水・金曜日 9:30～21:00

会議室利用時間

《午前》10:00～13:00

《午後》13:30～16:30

《夜間》17:00～20:30(水・金のみ)

※予約制(2か月前より可) / 利用料無料

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター
 武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター2階

電話/FAX：0422-37-3410

E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.mhnc.jp/>